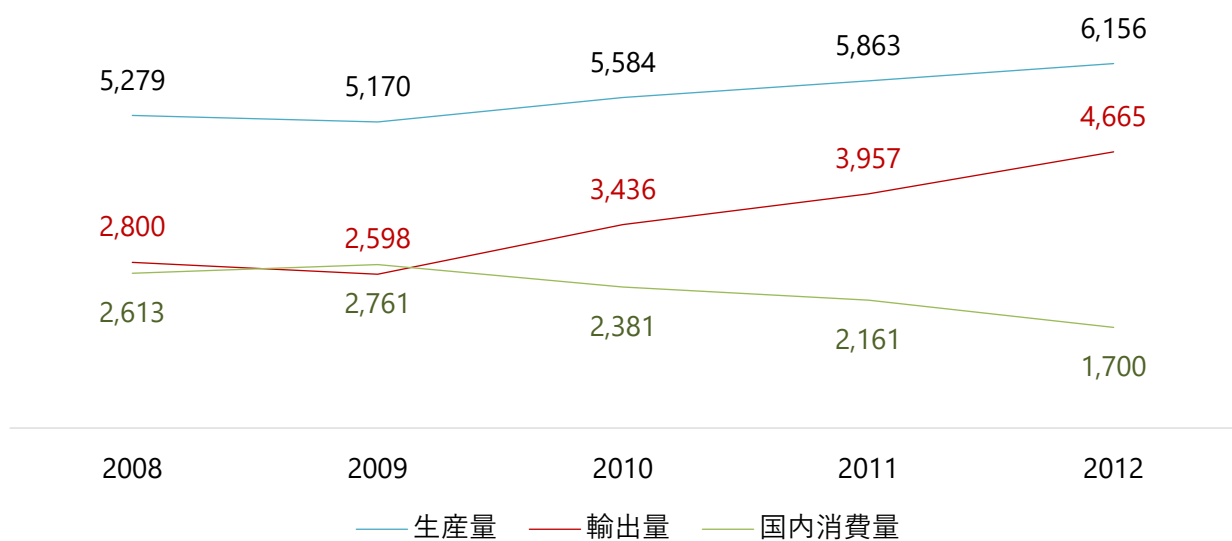


国内不動産不況を輸出が穴埋め

近年ベトナムは木材加工、特に家具生産で急成長している。ベトナムの木製製品の輸出額は2012年には国内市場17億ドルの約3倍に当たる46.7億ドルに達し、前年比で18.2%上昇した。一方で、2009年までは輸出市場とほぼ同規模だった国内市場は、不動産不況と海外品流入による価格低下で大きく落ち込んでしまっている。ベトナムの輸出商品中では、原油、繊維、靴、海産物に次いで第5位である。木製製品輸出では東南アジアで1位、アジアで2位、世界で6位となった。

ベトナム家具市場（百万ドル）



資料：ホーチミン工業木材産業協会

一方、輸入材料が80%を占め、特に無垢材を高い割合で海外依存していることが不安要素である。主要輸入先は、ラオス30%、中国14.7%、米国14.5%となっている。また、輸出商品別では、アウトドア家具が34.4%と最も多い。米国の住宅の庭に置く家具などで高い精度を必要としないものが多い。次いでダイニング家具31.6%、寝室家具18.5%となっている。いずれも、主材料として無垢材が必要である。中国、米国、マレーシアのような主要板材輸出国は、森林保護の長期戦略から材料費を年々押し上げており、ベトナムは高値生産を余儀なくされている。さらに、米国やEUのような主要な市場からは、木材製品の原産地証明を要求されている。EUの森林法、FLEGT、米国のレイシー法のような厳しい規制が合法的な材料の確保を困難にさせており、世界中の木材加工業者にとって無垢材の安定供給は生命線となっている。

ベトナム国内では630万haの林業地域があり、300万haが人工林で、地方自治体管理が多い。林業に力を入れている企業は多くはなく、振興が不十分なことが課題である。一方、約3,000の木材加工業者のうち16%約480社が外資企業で、その40%以上、209社を台湾企業が占めている。日本企業はニトリ

が北部に自社工場を建設するなど、既に進出企業は多い。日本国内に販路があり、途上国から材料を輸入し、安い人件費を生かしてローコスト生産を行うモデルであるが、日本基準での品質確保は当然課題となる。国内企業は中小零細企業が多く、無垢材の調達や原産地証明書、品質の要件など困難が予想され今後は選別が進むと考えられる。植林への投資も不十分なため、外資にとっては家具工場としての進出以外に、長期的な木材の開発も投資機会として考えられるかもしれない。